

塩竈市文化財調査報告書第9集

浦戸諸島発掘調査報告書 I

—平成27年度復興事業関連遺跡発掘調査報告書—

平成28年4月

塩竈市教育委員会

序 文

塩竈市は、宮城県の沿岸中央に位置し、奥州一の宮鹽竈神社の門前町であり、古代には国府多賀城の荷揚げ港として、江戸時代には伊達家の保護を受けた港町として、近代以降は近海・遠洋漁業の基地として栄えてきました。豊かな海を求めた人々の歴史は古く、浦戸諸島には船入島貝塚や桂島貝塚など学術的に貴重な遺跡が分布しています。また『おくのほそ道』の作者である松尾芭蕉も訪れた日本三景の一つ松島の玄関口でもあります。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、塩竈市内にも甚大な被害をもたらしました。家屋の全壊および大規模半壊は約3,000棟にのぼり、そのうち約2,500棟が津波による被害であり、避難者数は最大約8,700名でした。自然の防波堤となり津波から本土地区を守った松島湾内の浦戸諸島は、桂島、野々島、寒風沢島、朴島の4つの有人島と200余の無人島からなっています。すべての有人島で住宅や港湾施設、漁業施設、漁船、養殖施設が壊滅的な被害を受けました。このような状況で、漁業集落防災機能強化事業など復興に向けた事業の推進が急務となっており、これに伴う特別名勝松島の現状変更申請や埋蔵文化財の発掘調査件数も増加しています。

塩竈市指定文化財の寒風沢造艦の碑や十二支方角石が転倒したり、特別名勝松島に指定されている島の一部が崩落したりするなど被害を受けました。今に残る文化財は、人々が災害を乗り越え、歩みを続け、たくましくこの地に生き、繁栄を築き上げてきたことの証であります。

本書は、平成27年度に当教育委員会が実施した、復興事業関連遺跡調査成果を集成した報告書です。収録した埋蔵文化財調査の成果は、宮城県教育委員会の協力を得て蓄積されたものであります。

今後とも、本市の文化財保護とその活用になお一層努力して参りたいと考えておりますので、関係各位の深いご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、発掘調査にあたり、全面的なご協力をいただきました宮城県教育庁文化財保護課をはじめ関係機関の皆さま、埋蔵文化財発掘調査にご理解をいただきました桂島地区、寒風沢地区、朴島地区の方々に、厚く御礼を申し上げます。

平成28年4月

塩竈市教育委員会

教育長 高橋 睦 磨

例 言

1. 本書は、塩竈市浦戸諸島の桂島・寒風沢島・朴島における東日本大震災の復興事業に伴い、塩竈市教育委員会が宮城県教育庁文化財保護課の協力のもとに実施した発掘調査（確認調査）報告書である。
2. 発掘調査は、塩竈市教育委員会が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課の協力のもとに塩竈市教育委員会教育部生涯学習課が担当した。平成27年度の確認調査を担当した調査員は、下記のとおりである。
引地弘行（塩竈市教育委員会教育部生涯学習課）、田中秀幸（宮城県教育庁文化財保護課）、大本朋弥（宮城県教育庁文化財保護課、兵庫県教育委員会派遣）、柳澤和明・千葉直樹（東北歴史博物館協力）
なお、朴島北貝塚の平成25年度の確認調査を担当した調査員は、下記のとおりである。
嘉見俊宏（塩竈市教育委員会教育部生涯学習課、愛知県みよし市派遣）、廣谷和也（宮城県多賀城跡調査研究所協力）
3. 発掘調査に関わる機材等は調査原因となった各事業の事業者が負担し、整理・報告書刊行に係る諸経費は塩竈市の一般会計予算より支出した。
4. 発掘調査と資料整理・報告書の作成に関しては、以下の方々と機関からご指導・ご助言を賜った（敬省略）。
《個人》後藤勝彦、高橋守克、後藤光亀（東北大学大学院工学研究科）
《機関》宮城県仙台塩釜港湾事務所、宮城県仙台地方振興事務所農業農村整備部、宮城県仙台土木事務所河川部、熱海建設株式会社、宇佐美工業株式会社、東北重機工事株式会社、東洋建設株式会社、(有)志賀石材店
5. 第1・2・7・8・18図には、平成23年測量の「1/2,500仙塩都市計画図（国際航業会社調整）」の地形図を縮小して使用した。第2・7・18図に図示した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」による津波浸水範囲は、平成27年塩竈市発行の『東日本大震災 復旧・復興の記録 明日へ』p.5掲載の「市域の浸水範囲と浸水深（浦戸地区）」を用いた。また、第3・5・19図の地形図には、各復興事業の事業者が作成した図面を用いた。
6. 図版2・5・11、第18図には、国土地理院の地図・空中写真閲覧サービスよりダウンロードした航空写真を用いた。また、図版1には塩釜市浦戸振興課、図版10の一部には熱海建設株式会社、宇佐美工業株式会社、図版11の一部には宮城県仙台港湾事務所提供の写真を用いた。
7. 本書における平面図は、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震後の世界測地系国家座標第X系で作成した。図面中のX・Y座標値の単位はmである。
8. 本書における土色の記載は、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄、1973、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、日本色研事業株式会社発行）に依拠した。
9. 本書刊行に係る図面・写真整理作業、図面・図版作成は、調査を担当した各調査員が行った。本書の執筆は、調査員の協議を経て以下の分担で行い、引地弘行・柳澤和明が編集した。
第1章、第2章 引地弘行
第3章、第4章2 引地弘行・柳澤和明
第4章1、第5章 引地弘行・田中秀幸・大本朋弥・柳澤和明・千葉直樹
10. 発掘調査の記録と出土遺物は、塩竈市教育委員会が保管している。

目 次

第1章 遺跡の概観	1
1. 遺跡の位置・地理的環境	1
2. 歴史的環境	1
3. 浦戸諸島におけるこれまでの発掘調査	3
第2章 平成27年度浦戸諸島復興事業関連発掘調査の概要	5
第3章 桂島（桂島貝塚）の確認調査	6
1. 集落道整備事業に係る桂島貝塚確認調査	7
2. 避難路整備事業に係る桂島貝塚確認調査	11
第4章 寒風沢島（寒風沢元屋敷貝塚他）の確認調査	15
1. 浦戸農地海岸災害復旧事業に係る寒風沢元屋敷貝塚他確認調査	15
2. 寒風沢防潮堤工事に係る平戸貝塚他の確認調査	28
第5章 朴島（朴島北貝塚）の確認調査	43
引用文献	47・48
抄 録	49
奥付	

図 面 目 次

第1図 浦戸諸島の位置	2
第2図 桂島における遺跡分布と調査区の位置	8
第3図 集落道整備事業に係る桂島貝塚の確認調査トレンチ配置図	9
第4図 集落道整備事業に係る桂島貝塚の確認調査トレンチ柱状図	11
第5図 避難路整備事業に係る桂島貝塚の確認調査トレンチ配置図	12
第6図 避難路整備事業に係る桂島貝塚の確認調査トレンチ柱状図	13
第7図 寒風沢島の遺跡分布	16
第8図 浦戸農地海岸災害復旧事業に係る確認調査のトレンチ配置図	17
第9図 浦戸農地海岸災害復旧事業に係る寒風沢元屋敷貝塚他確認調査の土層柱状図	19
第10図 寒風沢元屋敷貝塚確認調査T29トレンチ南壁断面図	21
第11図 寒風沢元屋敷貝塚確認調査T22トレンチ北壁断面図	21
第12図 寒風沢元屋敷貝塚出土の主な自然遺物	22
第13図 寒風沢元屋敷貝塚出土の主な土器	23
第14図 防潮堤建設事業に係る寒風沢島平戸貝塚他の確認調査トレンチ位置図	29
第15図 寒風沢島平戸貝塚T3トレンチ確認調査平面図・断面図	31
第16図 寒風沢島前浜海岸第I期堤防の類例 チリ地震津波で洗掘した岩手県大槌町防潮堤	31

第17図	昭和35年（1960年）チリ地震津波で被災した寒風沢島前浜海岸第Ⅰ期堤防断面図	33
第18図	朴島における遺跡分布と調査区の位置	44
第19図	二重防潮堤建設に係る朴島北貝塚の確認調査トレンチ配置図	45
第20図	二重防潮堤建設に伴う朴島北貝塚の確認調査トレンチ柱状図	46

表 目 次

表 1	浦戸諸島確認調査一覧	5
表 2	昭和37年度海岸災害復旧事業変更実施設計書（寒風沢海岸前浜地区）	37

写 真 図 版 目 次

図版 1	西上空から見た浦戸諸島	2
図版 2	上空から見た桂島	6
図版 3	集落道整備事業に係る桂島貝塚確認調査	10
図版 4	避難路整備事業に係る桂島貝塚確認調査	14
図版 5	上空から見た寒風沢島南部	15
図版 6	浦戸農地海岸災害復旧事業に係る寒風沢元屋敷貝塚他確認調査（1）	24
図版 7	浦戸農地海岸災害復旧事業に係る寒風沢元屋敷貝塚他確認調査（2）	25
図版 8	浦戸農地海岸災害復旧事業に係る寒風沢元屋敷貝塚他確認調査（3）	26
図版 9	浦戸農地海岸災害復旧事業に係る寒風沢元屋敷貝塚他確認調査（4）	27
図版10	寒風沢島前浜海岸「昭和三十五年五月二十四日チリ地震津波被災の地」碑	38
図版11	寒風沢島防潮堤工事に係る平戸貝塚他確認調査 1	39
図版12	寒風沢島防潮堤工事に係る平戸貝塚他確認調査 2	40
図版13	寒風沢島防潮堤工事に係る平戸貝塚他確認調査 3	41
図版14	寒風沢島防潮堤工事に係る平戸貝塚他確認調査 4－T2トレンチ出土の切石	42
図版15	朴島北貝塚の確認調査	46